

代表挨拶



モグモグ通信の再開にあたって

岐阜県嚥下障害研究会代表

玄 景華（朝日大学教授）

皆さま、こんにちは。私は令和5年度より岐阜県嚥下障害研究会代表に就任しました朝日大学の玄景華です。よろしくお願いします。

岐阜県嚥下障害研究会は平成10年に発足して以来、岐阜県を中心に地道に摂食嚥下リハビリテーションに関する啓発活動を行ってきました。

令和2年初頭から新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、研究会活動も全面的に自粛となりました。ほぼ4年近くの休止期間を経て、令和5年11月23日に第23回学術大会（加藤哲大会長）を可児市にて開催しました。100名ほどの関係者が集まり、無事に盛会裡に終えました。少しずつではありますが、当研究会のさまざまな活動を再開していきます。そのために、このモグモグ通信も第36号の発刊（令和6年1月末）をもって再開します。最初の第1号は平成16年9月に発刊しました。当時の研究会会長の豊島義哉先生が「研究会発足7年を迎えて」ということで摂食嚥下リハビリテーション領域の啓発活動やさまざまな研修会の案内広報を充実させるために発刊しました。年に2～3回の発刊で、最後が令和2年1月に第35号を発刊したのち休刊状態になりました。今回からはレイアウトもリニューアルし、学術大会や小児・成人領域の研修会、初級課程研修などの案内や研究会報告を中心に皆さんの役に立つ情報を掲載していきます。今後は年に2回の発刊（5月末及び翌年の1月末）を予定しています。なお、モグモグ通信バックナンバー（第1～35号）は当研究会のホームページより自由に閲覧することができます。

モグモグ通信の再開にあたって、摂食嚥下リハビリテーションに関わる多くの皆さんの要望や助言をいただきながら当研究会活動を充実させていきますので、よろしくお願い申し上げます。

第23回岐阜県嚥下障害研究会の
学術大会が2023年11月23日(木)
可児市福祉センター大ホールに於いて
開催されました



牧野日和先生



玄景華代表



加藤哲大会長

役員・実行委員



可児市福祉センター大ホール

テーマ『機能低下や栄養改善のための最新のススめ～WEBでは体験できない！来て・見て・聴いて・聞いて・味わって！』

午前 企業展示・企業紹介

午後 特別講演 嚥下調整食の官能評価と低栄養患者への対応

講師 牧野日和先生 愛知学院大学心身科学部健康科学科

准教授・博士(歯学)・言語聴覚士・認定心理士

※コロナ禍で延期となっていました。当日は約100名余りの皆さまにご参加いただきまして誠にありがとうございました。

久しぶりにお顔を合わせての学術大会開催で安堵しました。

講師の牧野日和先生はじめ研究会役員、そして大会実行委員の先生方、またご後援・ご協賛賜りました関係企業・団体様には大変感謝申し上げます。

第24回大会は、朝日大学歯学部小児歯科学分野、長谷川信乃先生を大会長に開催されます。皆さまのご参加お待ちしております。

第23回学術大会長 加藤哲

～「嚥下調整食の官能評価と低栄養患者への対応」を受講して～」

岐阜県立寿楽苑管理栄養士 鷺見典子（すみのりこ）

嚥下調整食を理解し、対象者様にどのように関われば良いのか、管理栄養士として日々の勉強不足を痛感していたところ、今回の特別講演を知り、是非参加したいと思っていました。

「嚥下調整食の官能評価」では、①嚥下調整食の基準が分類されているが、必ずしも個人にぴったり当てはまるわけではない。②集団（病院、施設）へ提供可能な対応ができるような分類になっている。③集団の中の個人に、基準のどこかを当てはまらざるを得ない現状がある。④あとは手元調整で個人に合わせていくこと。これらの現状を正しく理解した上で、分類を活用していくことが大切であると、とても基本的かつ重要な学びでした。

また、官能評価（フードスタディ）の演習では、①食塊（飲み込みと量・大きさとの関連）②集積（拡散させず、食塊をまとめる）③駆出（食道側に押し出す力）のメカニズムを理解するため、市販の嚥下調整食を使い、実際に参加者が演習（飲食）をすることによって、食形態の特性を実感することができました。

「低栄養患者への対応」では、食べられない要因、誤嚥、低栄養の診断、高齢者のBMI、フレイル対策、認知症の方への支援について、クイズ形式でポイントを教えて頂きました。食支援も含め、人生の最終段階における患者様への摂食、医療のガイドラインの限界がある以上、患者様の自己決定が重要であることから、人生の最後に、自分がどうありたいかを考えさせられる学びでもありました。

講師の牧野日和先生のユーモアを交えた講演に引き込まれ、あっという間の2時間でした。この学びを、今後の管理栄養士業務に活かしていこうという気持ちを新たにしたい貴重な機会を頂き、ありがとうございました。

小児領域研修会のお知らせ

＼岐阜県嚥下障害研究会 小児領域研修会／

いのちの理由

～コウノドリの現場から、あなたへ～

R6.2.4(日)

10:00-11:45

9:30～受付



コロナ禍で活動を休止していました
当研究会ですが、活動を再開します。
小児領域の再開第1回目の研修として、
療育に関わる私たちが、保護者や
子どもたちとしっかり向き合っていく
ため、日々小さな命を支えておられる
寺澤先生に、“いのち”についてお話し
頂こうと思います。

皆様のご参加お待ちしております。

参加費 2,000円（当日徴収）

※「公益財団法人風に立つライオン基金」に充てられます。

定員 150名（先着順）

締切り 1月31日(水)

お申込み方法

右記QRコードからURLの
フォームに必要事項を記入
のうえお申込みください。
同じ職場で複数参加の場合
も、お一人ずつお申し込み
ください。



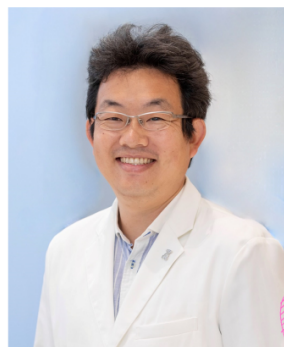
会場

朝日大学

1号館3階第4大講義室

瑞穂市穂積町穂積1851

※駐車場に限りがあるのでできるだけ
乗り合わせてお越し下さい。



講師

岐阜県総合医療センター
新生児内科医長

寺澤大祐先生

岐阜県山県市出身

2004年宮崎大学医学部卒業

高山赤十字病院、岐阜大学医学部附属病院、
厚生労働省・長良医療センターを経て現職に重
篤な状態で生まれた新生児の救命と治療を行う
周産期（新生児）専門医

学生時代からさだまさしさんと交流があり、小
説「眉山」「風に立つライオン」の医学監修を
務められた。

最新刊「在宅医療が必要な子どものためのケア
テキストQ&A改訂2版」2023（分担執筆）

お問い合わせ：各務原市福祉の里 安田香実

e-mail: gifu.enge.syo2@gmail.com

成人領域研修会のお知らせ

成人領域事例報告会 参加者募集中

- 日時：令和6年3月2日（土） 13:30～16:00
- 場所：朝日大学（1号館3階第4大講義室）
- 岐阜県瑞穂市穂積 1851 番地
- 参加費：無料 申し込み方法：Peatix にて募集中
- <https://peatix.com/event/3768575/view>



予定プログラム：

●テーマ1：症例報告 CIVID-19 と摂食嚥下障害支援の取り組み（順不同）

①高齢者施設において炭酸とろみにより看取りが解除となった事例

～コロナ感染まん延防止のための洗口液の使用～

社会福祉法人桜友会特別養護老人ホームほほえみ福寿の家 歯科衛生士 伊藤ひとみ

当施設では、コロナ第6波（令和4年1月1日～3月31日）の1月末から2月初旬がコロナ感染のピークでした。感染されていない方も居室管理となり、認知症の進行や、食欲不振の方が沢山みえました。その中でコロナに感染し、入院による療養を経ても食事が食べられず看取り対応で退院された方が、炭酸とろみを使用することで食欲が回復し看取りが解除となった事例を報告させていただきます。また、当施設における災害・感染予防の口腔ケア用品の備蓄についてもご紹介させていただきご意見を伺えましたらと思います。

②左視床出血を発症後、回復期病院入院中に COVID-19 罹患し嚥下機能低下を認めた症例

愛知県済生会リハビリテーション病院 言語聴覚士 安田珠実

症例は89歳男性、左視床出血を発症後、リハビリ目的で回復期病院に転入院。入院時、ADL 全介助、食事は介助で経口摂取可能であった。回復期病院に入院中、COVID-19 に罹患し、隔離対応となった。嚥下機能低下を認め、一時的に経鼻経管栄養管理となったが、退院時は3食経口摂取可能となった症例について報告する。

③COVID-19 感染により心原性脳塞栓症者の在宅摂食嚥下リハビリテーションが一時中断した事例

朝日大学医科歯科医療センター 歯科衛生士 山本綾子

今回、在宅摂食嚥下リハビリテーションを実施した70代後半の心原性脳塞栓症者に、COVID-19 感染により介入が9か月にわたり一時中断した事例を報告するとともに、中断中の家族や多職種との連携、再開後の病状変化、今後の対応などについて検討した。

④新型コロナ感染後の摂食嚥下障害者の現状と課題～認知症患者の先行期問題のアプローチ～

医療法人和光会山田病院 摂食嚥下障害看護認定看護師 伊丹和美

摂食・嚥下障害患者は年々増加しつつ高齢化しており、特にフレイル、サルコペニアをベースにもつ患者が増え、誤嚥性肺炎は日本人の死因の第6位を占めている。それに加え、2020年からは新型コロナウイルス感染症に関連した種々の原因による摂食嚥下障害が報告されこの割合は今後も増加すると見込まれる。

当院にも新型コロナ感染後の経口必要栄養量困難となり入院するケースが多い。しかし、認知症を伴う、食事拒否等の先行期問題に対して苦渋しているのが現状である。昨年1年の先行期問題を焦点にあてた取り組みを振り返り、現状と今後の課題を皆さんと検討し今後の取り組みに活かしていきたいと考える。

●テーマ2：講義●

摂食嚥下障害者の事例報告のポイント

岐阜県嚥下障害研究会代表 玄景華（朝日大学教授）

今回の成人領域事例検討会のテーマは、「COVID-19 と摂食嚥下障害支援の取り組み」で事例（症例）報告が予定されています。皆さまには是非、事例報告（症例報告を含む）をどのように作成していくのか基本的な事項を押さえながら、それぞれの視点に応じた報告作成のポイントをお話します。

●テーマ3：企業によるフアンポイント研修●

感染症と栄養管理～乳酸菌の新しい機能性について～

ニュートリー株式会社 川東美穂

感染症のリスクの高い高齢者の免疫と栄養管理の必要性についてお話をさせていただきます。

また免疫にかかわる乳酸菌の新しい機能「バイオジェニクス」についてご紹介いたします。

たくさんのご参加をお待ちしております



岐阜県嚥下障害研究会新役員

任期 令和5年4月1日～令和8年3月31日

代 表	玄 景華	朝日大学 教授 歯科医師
副代表（小児担当）	安田 香実	各務原市福祉の里 事業課長 言語聴覚士
副代表（成人担当）	松井 司	社会福祉法人高住会 粹いき・馬瀬の元気館 摂食・嚥下障害看護認定看護師
理 事（会計）	安田 順一	朝日大学歯学部口腔病態医療学講座 障害者歯科学分野 准教授 歯科医師
理 事	阿部 忍	東海学院大学 言語聴覚士
理 事	伊藤 ひとみ	岐阜県歯科衛生士会 研修委員 社会福祉法人桜友会 特別養護老人ホーム ほほえみ福寿の家 歯科衛生士
理 事	大埜間 勉	おおのま歯科クリニック 歯科医師
理 事	川口 千治	朝日大学医科歯科医療センター 歯科衛生部長
理 事	品川 康一郎	岐阜県言語聴覚士会 理事 多治見市民病院 総合リハビリテーション課 主任 言語聴覚士
理 事	柴田 一浩	岐阜県立希望が丘こども医療福祉センター 言語聴覚療法係長 言語聴覚士
理 事	高田 亜希子	岐阜県立岐阜本巣特別支援学校 教諭
理 事	谷口 裕重	朝日大学歯学部口腔病態医療学講座 摂食嚥下リハビリテーション学分野 教授 歯科医師
理 事	二村 洋代	岐阜県立多治見病院 看護師主査 摂食・嚥下障害看護認定看護師
理 事	長谷川 信乃	朝日大学歯学部 嘱託職員 歯科医師
理 事	林 哲次	かもの歯科医院 歯科医師
理 事	吉田 明永	岐阜県立岐阜希望が丘特別支援学校 教諭
理 事	渡辺 真実子	岐阜県東濃保健所 非常勤管理栄養士
監 事	加藤 哲	かとうこども歯科クリニック 歯科医師
監 事	西田 里美	朝日大学歯科衛生士専門学校 非常勤講師 訪問歯科衛生士

新役員自己紹介(五十音順)



阿部 忍

老人保健施設の言語聴覚士として20年、高齢者の臨床に携わってきました。現在は東海学院大学で言語聴覚士養成に携わりながら、各務原市フレイル予防事業にも携わらせて頂いています。高齢期の楽しみは「食」が大きなウェイトを占める一方で、誤嚥性肺炎による死亡率は依然として高い現状があります。健康寿命の延伸を図り、最後まで自分の口から食べる喜びを味わって頂くために何ができるのか、今後も模索していきたいと思っています。



伊藤 ひとみ

私は、平成28年より、一般社団法人岐阜県歯科衛生士会から「岐阜県嚥下障害研究会」に推薦いただきまして理事を務めさせて頂いております。摂食嚥下リハビリテーションに興味を持ち、歯科衛生士会とこの研究会の初期研修を手始めに学び18年が経ちました。高齢者福祉施設に勤務しておりますので、日々、歯科衛生士として高齢者の口腔健康管理に携わっております。その中で、どんな方にとっても「食」は楽しみであると共に、「食」が人生の最期まで彩りとなることを感じております。



加藤 哲

可児市でかとうこども歯科クリニックを開設しています、加藤 哲(さとる)と申します。小児に対する訪問歯科診療の口腔管理として発揮出来るよう、当研究会で研鑽をしたいと思っています。よろしくお願い申し上げます。



川口 千治

現在、朝日大学医科歯科医療センター歯科衛生部に所属しております。研究会との関わりはもう20年ほどになります。主に初級コースにおいて口腔ケアを担当していますのでお目にかかった方も多いと思います。研究会での歯科衛生士の役割の重要性を今後もお示しできたらと思っています。



玄 景華

私の専門領域は障害児・者の歯科治療や摂食嚥下リハビリテーションで、30年近くになります。現在は朝日大学教授としていろんな場面で指導や研究を行っています。岐阜県嚥下障害研究会との関わりも長く、地域の特性を感じる事が多い。小児から高齢者まで、医療機関や施設、在宅環境など、いろんな状況のなかで摂食嚥下リハの関わりは今なお難しさを感じています。是非、皆さま方と一緒に進んでいきたいと考えています。今後よろしくお願い致します。

新役員自己紹介(五十音順)



品川 康一郎

多治見市民病院に所属しております言語聴覚士の品川康一郎です。今回、当研究会の広報として関わらせて頂くこととなりました。嚥下という分野は、小児から成人まで幅広いです。それに関わる方々（医療や福祉、教育、療育など関係する職種）は、日々試行錯誤しながら対応されていると思います。広報で、会員の皆様のニーズに応える研修や、勉強会などに関する企画をお知らせできたらと考えております。微力ではありますが、どうぞよろしくお願い致します。



柴田 一浩

この度、岐阜県嚥下障害研究会の再スタートにあたり、理事を拝名しました岐阜県立希望が丘こども医療福祉センターの言語聴覚士柴田一浩と申します。

長年、小児領域の摂食嚥下の治療・リハビリに関わってきました。今回、小児領域及び初級課程の研修会等を担当させていただきます。摂食支援には多職種の関係者が関わっています。皆様と一緒に摂食・嚥下障害児者のQOLの向上のため、微力ですが尽力させていただく所存です。



高田 亜希子

岐阜県立岐阜本巣特別支援学校に勤務させていただいています。校内支援と地域の校外支援を担当させていただいています。特別支援学校には、食べることに課題のある児童生徒が多数います。摂食嚥下機能や身体機能による課題など児童生徒に応じて様々な課題があり、的確な実態把握が必要です。岐阜県嚥下障害研究会の研修や啓発活動において、専門性を高め児童生徒の生涯にわたるQOLの向上に少しでも役立つことができることを願っています。



谷口 裕重

2004年に新潟大学医歯学総合研究科博士課程修了後、新潟大学医歯学総合病院 摂食・嚥下機能回復部 講師、Johns Hopkins University, 藤田医科大学 歯科・口腔外科 講師、朝日大学歯学部 障害者歯科学分野 准教授を経て、2023年4月から朝日大学歯学部 摂食嚥下リハビリテーション学分野 教授に就任。「摂食嚥下リハビリテーション」を専門としており、岐阜県を「食」で繋ぐ活動や、多くの企業と介護食の開発などの共同研究を行っている。



西田 里美

生涯出会う人の数は、決まっていると本で読んだことがあります。新型コロナウイルス感染症の分類が、5類に引き下がりましたが、変わらず細心の注意を図りつつ、教育現場・施設や居宅訪問へと、出会った人との縁に感謝しながら飛び回っています。研究会で出会った人達との縁と輪を通して、更なる自己成長への学びと、利他の心を忘れず精進していきます。よろしくお願い致します。



二村 洋代

医療相談課で入院支援担当しております。嚥下訓練は行っておりませんが、退院後の生活に向け環境調整や食事・栄養の相談・指導を行っております。よろしくお願いいたします。



長谷川 信乃

現在は朝日大学嘱託職員として医療センター小児歯科で診療および歯学部にて小児歯科学の講義を行っています。大学時代は基礎歯科医学系科目が好きでしたが、卒業後はなぜか臨床系の大学院に進み小児の口腔機能についての研究（大学院では混合歯列期の画像分析、その後は主に小児期における摂食嚥下時の喉頭運動と口腔周囲筋活動との協調）を主に行っていました。ライフサイクルをみれば、高齢者における口腔機能の低下を防ぐにはまず小児期の十分な口腔機能の発達が必要ならば成り立たないことは明瞭です。今後も小児の口腔機能に関連した内容をテーマとし種々調査、検討を行っていきたいと考えています。



松井 司

今年度より成人領域の副代表を務めさせていただきます。2015年より摂食・嚥下障害看護認定看護師として病院で摂食嚥下障害患者さんに関わってきました。急性期の患者さんへの看護を通して、地域での嚥下機能の維持・向上の関わりが必要と感じ、今年度より施設で勤務をしています。病院と施設での経験やつながりを生かして、多職種で学び、連携できる環境を作っていきたいと思っています。



安田 香実

コロナ禍を経て、再び岐阜県嚥下障害研究会が活動することになりました。今回、小児領域の担当として、副代表というお役目をいただきました。小児領域の現状は、めまぐるしく変化している印象があり、ニーズがどんどん多様化しています。支援には、より多職種、他機関との連携が必要です。また、障害者の高齢化に伴い、摂食に関する課題も多く聞かれるようになりました。こうした状況に、当研究会が少しでも貢献できるよう、頑張りたいと思います。



安田 順一

朝日大学医科歯科医療センター障がい者歯科の歯科医師です。朝日大学を卒業後、母校の大学院で学び、その後は病院歯科の医員として勤務しました。大学に戻ってからは、障害者への歯科治療を中心に、口腔ケアや嚥下リハも行ってきました。当研究会は、2001年の高山大会から参加しています。2018年の岐阜西濃大会では大会長を務めました。今年度から事務局を担当しています。これからも様々な職種の方々の協力を得ながら、チームとして連携して食事やコミュニケーションのサポートに努めます。



吉田 明永

昨年度は、大学院に通い、学校のマネジメント等について学んでおりました。今年度は、週に4日間は勤務校へ行き、残りの1日は、大学院へ通っています。勤務校で通常の勤務をしながら、自身の研究テーマについての実践を行い、論文にまとめていきます。研究のテーマは、「肢体不自由特別支援学校教員の専門性向上のための研修体制の充実」です。摂食指導を含め、様々な専門性の向上のために実践を行っていきます。 よろしく願いいたします。



渡辺 真実子

私は、旅行が好きです。旅先で見知らぬ人と話し、美しい風景を見て、その土地の名物を食べるのが好きです。諺の「名物にうまいものなし」とは、名物といわれる食べ物でうまいものはない。名は必ずしも実を伴わないことの例えですが、私は「名物にうまいものあり」だと思っています。名物とは、その土地の気候や風土、人々が生活してきた中で受け継がれた食文化です。味覚は人によって違いますが、誰もがいつまでも、食事を美味しく楽しみたいと思っています。嚥下調整食は、食材の特徴を知り特徴をいかして調理法を工夫することが大切です。柔らかく、まとまりやすく、なめらかなお食事を提供するお手伝いをすることが、私たち栄養士ができることだと考えます。私が何より好きなのは、「おいしい」の笑顔です。

役員担当

役員担当（敬称略）

代 表	総 括	玄 景華
副代表	小児領域	安田 香実
副代表	成人領域	松井 司
会 計	事務局	安田 順一
HP 担当	責任者	品川 康一郎、玄 景華
初級課程	責任者	川口 千治、柴田 一浩
モグモグ通信	責任者	加藤 哲
岐阜地区担当	責任者	長谷川 信乃
中濃地区担当	責任者	加藤 哲
東濃地区担当	責任者	二村 洋代
飛騨地区担当	責任者	松井 司

小児領域担当：安田香実、加藤 哲、柴田一浩、高田亜希子、西田里美、長谷川信乃、吉田明永

成人領域担当：松井 司、阿部 忍、伊藤ひとみ、大埜間 勉、川口千治、品川康一郎、

谷口裕重、二村洋代、林 哲次、渡辺真実子

地区担当所属

岐阜地区：長谷川信乃、阿部 忍、玄 景華、川口千治、柴田一浩、高田亜季子、谷口裕重、

安田香実、安田順一、吉田明永（10 名）

中濃地区：加藤 哲、伊藤ひとみ、西田里美、林 哲次（4 名）

東濃地区：二村洋代、品川康一郎、渡辺真実子（3 名）

飛騨地区：松井 司、大埜間 勉（2 名）

事務局よりお知らせ

年会費は無料です。
過去に年会費を支払って会員になられた方も、
改めてホームページから登録をお願いします。
県内だけでなく、県外からの入会も歓迎します。
入会はホームページからお願いします。

<https://ssl.form-mailer.jp/fms/3b746277789060>

事務局：安田順一



編集後記

当研究会はしばらくの間休会となっていたましたが、この度新たなスタートを迎えました。HP及びモグモグ通信もリニューアルです！
紙媒体を極力省きデジタル化を図ります。
皆さまからご意見を頂戴できれば幸いです。

追記）令和6年能登半島地震で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますと共に被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。
通信担当S.K